



京丹後に棲む  
絶滅危惧種のハヤブサ

# ハヤブサ

ニュース No.87

2023. 8. 18

発行 米軍Xバンド レーダー基地反対・京都連絡会

連絡先 〒 602-8347 京都市上京区四番町121-5 大湾 宗則

電話&FAX 075-467-4437

郵便振込口座 00950-9-303127 名義 京都連絡会

## 「街なかピラ」の報告と 今後のお知らせ (文責 白井) 2023年7月の報告

**第155回 7月10日(月) 大手筋商店街 11人**

<街の人の声>

- 生活は苦しいけど、防衛費の増額はやむを得ないのでは。ウクライナでクラスター爆弾を使うのはもっての外だ。• 今の情勢なら仕方ないのでは (80代・男)
- 地道な活動ですね。ご苦労さんです。(60代・男)

**第156回 7月21日(金) 東寺周辺 9人**

<街の人の声>

- 京都に? 知らなかった。教えてくれてありがとう。
- 知らなかった。京都の人知らないのでは?
- 西小倉でピラ配りをしているが、おたくらも頑張ってはるね~、出来る者がやらないとね。• 日本が戦争する方向に行っている。反対の声をあげないと。...



**第157回 8月7日(月) 出町周辺 6人**

※報告はハヤブサ9月号に回します。

今後の予定です

**第158回 8月24日(木) 堀川三条商店街**

集合場所: 市バス「堀川三条」停

**第159回 9月12日(火) 東山三条 周辺**

集合場所: 東山三条交差点の西南角です。

**第160回 9月22日(金) JR「円町」駅周辺**

集合場所: JR「円町」駅前です。

時間はいずれも11:00~12:00です。

無理のない体調でご参加ください。待っています。

連絡先: 090-5672-1597 (白井)

## 8月例会 No X-Band京都連絡会

8月24日(木)18:30 ひとまち交流会・京都

**ミャンマー人民の闘いに連帯しよう!**

おはなし

瀧川 順朗さん

ウクライナの国家や人々を支援する人々が多いが何故、ミャンマーの人々の闘いは支持されないのか?

ウクライナ・ロシア戦争は、NATO が仕掛け、ゼレンスキーが煽った国家間の戦争だが、国軍と対峙するミャンマーの人々の闘いは、労働者人民の新社会建設に通ずる。困難で命懸けだが、新社会を建設するということの苦難の道を示している。私たちは、ミャンマー人民の闘いを国際連帯で支え、支持することを呼びかける! 乞うご参加を!

## 9月例会 No X-Band京都連絡会

9月28日(木) 18:30 ひとまち交流館・京都

**有機フッ素化合物(PFAS)を根絶しよう!**

おはなし

大湾 宗則さん

米軍基地だけでなく、自衛隊基地からも、更に消防署や行政の地下にも PFAS が確認されている。

泡消火剤として、また漏れ出して長期にわたって

地下水、井戸、河川などいたるところに沈殿している。PFAS が有機フッ素化合物で人体に蓄積し、ガンなど多様な疾病があらわれていることが確認され、製造禁止、残量使用についても制限が厳しくなされている。ところがこの PFAS に替わる消火剤がない、ということで使われ続けてきた。

日米両政府の高官や軍人・官僚たちは国益のためには人の命など無視する「殺人者」に成り下がっているのか。この闘いは、放射能汚染水放流反対闘争に通じ、連帯できるものと思います。

東京はじめ全国的にもこの PFAS について調査・検証がされているが、その拠点は沖縄県・宜野湾市の「有機フッ素化合物(PFAS)汚染から市民の生命を守る連絡会」の活動だと思っています。「会」は、「ちゃーすが PFAS」という「報告&資料集」を発行しました。この資料集を手引きと一緒に学習したいと思います。ご参加お願いします。とても役立つ「資料集」です。当日何冊か持ち込みます。¥ 500.-

(註)「ちゃーすが」の意味は「どうしたらいいの」

# 米軍は「良き隣人」ではありえない 「地域との交流」を通じて浸透を狙う米軍

池田たかね

京丹後の米軍 X バンドレーダー基地に駐留している米陸軍第 14 ミサイル防衛中隊のフェイスブックの最近の投稿には次のようなものがある。

<第 14 ミサイル防衛中隊「ハヤブサ」、航空自衛隊第 35 警戒隊「ジャンブル」、女性混成チーム「ジャンブル・ウーマン」は 8 月 6 日、京丹後市久美浜町で行われたドラゴンカーレースに参加しました。「ハヤブサ」と「ジャンブル」はセミファイナルに進出し、「ジャンブル・ウーマン」は見事に 3 位に入賞しました。パートナーや地域の皆さまと友好関係を構築し、我々の友情を更に深める素晴らしい機会となりました。このような地域のイベントに参加する機会に感謝すると共に、来年も参加することを楽しみにしております>

これをひとつの例として、京丹後に駐留する米軍による「地域との交流」は頻繁に行われている。フェイスブックには今年 7 月に行ったこととして、琴引浜の海岸清掃への参加（7 月 22 日）、網野町小浜での NGO 主催による海岸清掃への参加（7 月 16 日）、宇川の学童保育での七夕のイベントへの参加（7 月 5 日）、英会話交流「ミートアップ」への参加（7 月 3 日／毎月行われている）、袖志での海岸清掃への参加（7 月 2 日）などが写真とともに掲載されている。

また、安全安心連絡会でも防衛局より米軍の「地域との交流」が毎回報告されている。例えば、「イースターエッグハント」（23 年 4 月／子どもを対象にしたもので、隠されているイースターエッグを探し、見つけた数に応じた景品が出される）、日米交流音楽祭（23 年 2 月／丹後文化会館）、茶道と折り紙体験（23 年 2 月）、ハロウィン（22 年 10 月／宇川など 3 カ所で実施）などだ。

こうした「地域との交流」は、米軍により目的意識をもって、組織的に行われている。それは、米軍への親近感を形成し、米軍基地があることに慣れさせ、それによって駐留部隊とその作戦活動の安定を図ることである。それは個々の米軍人の趣味や慈善事業として行われているのではなく、軍隊としての作戦

行動の一環であり、「宣撫工作」というべきものだ。直接の軍事的な活動でないから問題ないというものではない。このような作戦を通して米軍は地域に浸透し、基地と米軍の存在をあたかも当然のように思わせようとしている。

米軍は自らを「良き隣人」として演出しようとしてきた。しかし、そもそも米軍 X バンドレーダー基地は、米国による世界的な覇権の維持、世界の軍事的な支配の維持のためのアジア太平洋戦略の一環として、そしてまた、日米による東アジアでの戦争体制づくりの強化のために建設されたものだ。戦時においてレーダーが真っ先に攻撃対象になることが示すように、この基地と駐留部隊はますます強化される戦争体制の最先端の役割を担っている。アジアと世界で戦争の火種を拡大し、軍事緊張を煽っている米軍は決して「良き隣人」にはなりえない。「良き隣人」であることを求めるのではなく、米軍の撤退こそが必要だ。

京丹後での基地の建設・稼働から 10 年近くが経とうとしている。そのなかで基地が存在することを当たり前だと思わせられるような状況もつくりだされてきている。米軍は先にあげた工作を通してそれをさらにおし進めようとしている。しかし、度重なる米軍関係者の交通事故問題が示すように、米軍基地の存在と住民の「安全・安心」は両立しえない。また、地域住民との「友好関係の構築」などと言うが、米軍の都合、軍事がすべてに優先することは発電機の騒音問題やドクターヘリ運航時のレーダー不停波問題でも示されている。そもそも米軍 X バンドレーダー基地は他国の人々に銃口を向けた日米の戦争体制の一部なのだ。戦争体制の強化を許さず、基地撤去に向けた運動を広げていこう。

## 京丹後訪問日程

8/29 (火)、9/14 (木)、9/25 (月)

いずれも

午前8時30分、鴨川五条大橋GS前集合

車の準備がありますので参加者は池田まで

ご連絡をお願いします。090-7108-5508 池田



# シエルターでは命は守れない 沖縄が開いた地平を継承発展させよう

大湾 宗則

政府権力者は、日本の国民性を知り抜いている。強権で追い込めば「背に腹は代えられぬ」「とれるものは取る」と変身する、と。

差別による貧困と国策過疎こそ戦争の土台。

2016年から具体化した沖縄・先島(南西諸島)への自衛隊配備は、貧困にあえぐ過疎地(自治体)を差別し、利用して「脅しと嘘と札束」で強行された。当初、賛否が拮抗した地元も政府の強権と地元受け入れ派の「村八分」をちらつかせた脅しにしり込みし、全国的な連帯が見えない中孤立し、「背に腹は代えられない」、「どうせなら取れるものは取っておこう」と変身する。こうして次々と墮とされてきた。

京丹後でもそうだが、与那国、宮古島、奄美群島、石垣島で日本政府・防衛省がどんな手口で自衛隊配備を強行したか、その典型的な(全体に共通した)例を提起したい。

先島で最初に狙われたのは与那国島。台湾まで約110km。政府・防衛省は、日米安保条約に基づく共同訓練を東アジアや東北アジアで繰り返す、中国、朝鮮に対して軍事的経済的封鎖を繰り返してきた。これに対抗して中国、朝鮮の軍事強化が「台湾有事、尖閣(釣魚台)、沖縄・先島有事」につながり、いまにも中国が台湾だけでなく沖縄の先島にも攻め込んでくる「有事」を煽り立てる。情報に事欠き、世界の動きをよそ事と見てきた人々のつけは政府の「脅し」のとりことなり、国防意識にのめり込まされる。

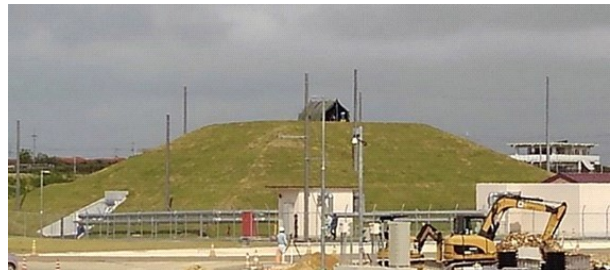
「脅し」は、「中国の力による現状変更と海洋進出」、「尖閣(釣魚台)領海への侵入」「台湾有事」にさせないためとの名目で抑止力強化が必要などと住民を教育し、自衛隊配備を強要してきた。その上で「先島諸島の防衛力の空白地域の解消が重要だと強調し、併せて住民が欲している「台風などの災害に敏速に対応し、住民の安全を確保する部隊配置は必要」と付け加えて墮とし込む。

「嘘」は、宮古島の弾薬庫建設に際立っている。2019年4月1日の「東京新聞」の報道によると、防衛省が多目的誘導弾などの弾薬を配備するにもかかわらず、「自動小銃などを入れる『保管庫』」と言い張り、住民に示した施設整備概要図でも弾薬庫を実測よりも小さく描いて弾薬庫を隠していた。「ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会」の清水早子事務局長は、「施設整備概要図」では「保管庫」と記された建物は二つあり、いずれも隣接する「事務所」

とほぼ同じ大きさだった。ところが清水さんが昨秋、独自に入手した工事業者の設計図では、二つの「保管庫」の面積が違っていった。一つは小さめの4m四方、もう一つは巨大な54m×53mとこの保管庫は約180倍の差があった。

清水さんたちは那覇でのヒヤリング、参議院会館での防衛省からのヒヤリングに参加し、資料を示して「弾薬庫ではないのか」と追及したが、防衛省は「自動小銃などの小火器をいれる保管庫で弾薬庫とは違う」と言い張った。

しかし、駐屯地が発足した3日後の3月29日、防衛省は東京新聞の取材に対して「小さい方は発煙筒や導火線などを入れる保管庫だが、もう一つは誘導弾などの弾薬を詰め、周りをコンクリートで覆い、盛り土をする弾薬庫だ」と率直に認めた。



盛り土で覆われた弾薬庫(中央)。右端の白い建物は保管庫=清水早子さん提供

清水早子さんは「事実を隠し、虚偽説明を続けたのは許せない。弾薬庫のすぐ横に給油所があり、100mほど離れたところに民家がある、非常に危険だ」と抗議した。

こんな話は京丹後の米軍Xバンドレーダー基地配備を巡る私たちとの攻防の中で防衛省が京丹後市に示した「10の約束」が「嘘」と「空手形」になっていることと同類である。

「札束」は、宮古市議会の2014年6月定例会で下地俊彦市長が陸上自衛隊・警備部隊の宮古島配備に関し、「一般論だが、350人～400人規模になると大規模な公共事業が大幅に増える。地方交付税や市税も増え、購買力も高まり、地域活性化につながると思う」と述べている。

与那国はさらに具体的だ。配備を巡って2015年2月に住民投票が実施されたが配備賛成が622票、反対が445票で配備が勝った。

この結果、2016年3月、与那国島への自衛隊沿岸警備隊(レーダー部隊160人、家族含めると約200人)が配備された。約1500人の人口が自衛隊家族を加えて1700人に増え、与那国島における自衛隊関係者は12パーセントを占め、町

政への影響力を確保している。

陸自配備を受け入れた与那国は、町所有地の自衛隊への提供によって防衛省(国)から賃貸料として年間 1,500 万円、町民税も年約 5,000 万円増え、予定していたごみ焼却施設約 24 億円は防衛施設周辺対策事業に組み込まれて国から 90 %の補助が確約された(国負担 21 億 6 千万円、町負担わずか 2 億 4 千万円)。これらの増収で小中学生の給食費を無料にできたと宣伝している。この他、陸自与那国駐屯地内に町民も利用できるグラウンドが出来た。こうして当初の強硬手続きは背後に隠れ、基地は住民合意の形をとり、「法の支配・契約の誠実な履行」を迫られている。

**シェルターは住民保護に有効か、不可欠か?**

#### **国民保護法 2004 年 6 月施行**

国民保護法の基本方針には「(防衛任務)活動に支障が生じない範囲で可能な限り国民保護措置を実施する」とあるが、元陸将山下裕貴氏は「本格的な武力攻撃事態となれば自衛隊は全力で防衛作戦に当たるため余力がない」と言明している。国民保護法では、国は、住民保護を自治体に押し付け、自らは日米安保の強化を進め抑止力=軍事力強化、軍需産業育成を見込んだ敵基地攻撃能力の国産化が可能になるよう法改正を急いでいる。

自衛隊配備が完了すると自治体と住民は「長距離射程のミサイルや弾薬庫」は、標的になる、との恐怖心から住民避難策を政府に懇願する。

具体的にはシェルター建設が要求されている。政府は、基地が完成するまでは住民の「どんな要求も(金で済むなら)飲み込む」。しかし彼らの懐は痛まない。国税の浪費、バラマキ、そして国民の政府への隷従が進められている。

宮古島市の例。宮古島市は、国が 2022 年 12 月の国家安全保障戦略三文書で先島諸島への住民保護施設の設置を南西地域に確保すると明記していることを踏まえて、市が建て替え予定の総合体育館(平良)に国の財政支援を求め、そこに新設される地下駐車場を地下シェルターとして活用するため、食品及び毛布等含む日用雑貨の備蓄、自家発電機なども設置できるよう計画・要請している。

**国民保護規定…住民保護の諸条件は如何に?**

国民保護法は 2004 年に制定されているが、そのマニュアルは具体的でなく、また自衛隊配備が進む「貧困」自治体の財力では独自の計画も立てられない。避難計画に必要な具体策は、避難に必要な船舶、航空機の確保だが自衛隊機

は軍用機として標的になり困難、民間機のチャーターは財政的裏付け無し。高齢者、小児、障害者、入院患者等の移送又はシェルターでの生活確保、地下施設や鉄筋の大きな建物もなく、石垣島 49,801 人、宮古島の人口 47,171 人 奄美群島の人口 104,281 人、与那国島の人口 1,700 人、合計 202,953 人(自衛隊家族含む)。この人数の避難とシェルター確保は全く不可能でしかない。現代戦争で国民保護・シェルターは何の役にも立たない。戦争準備する政府を倒して戦争しない政府をつくる以外に手はない。

#### **下地空港、日米使用の狙い**

今政府・防衛省は、3000 メートル滑走路を持つ宮古島・下地空港を「住民避難」を口実に日米安保に組み込もうとしている。この下地空港は民間機のパイロット養成用に利用することに特化されており、復帰 1 年前の 1971 年、屋良琉球主席と日本政府が交わした「屋良覚書」で軍用機の使用禁止が確認されている。下地空港の安保利用は決して認めることはできない。

**沖縄の新たな標語…「争うよりも愛を」… ?**

**仲間内からはびこる歴史修正主義を克服しよう!**

最近の沖縄からの便りに「若者の参加」を歓迎しつつ、しかし麻生氏の台湾での演説の「戦う決意の強要」に反発し、「私たちは闘わない覚悟」「殺されるくらいなら正義もプライドもどうでもいい」…という「哲学を広めよう」との呼びかけが行われているのは戴けない。

「白旗の少女」を著した本人・比嘉富子さんの本文からは「戦わない決意」は示されていない。「寝っ転がって白旗掲げる」無様な描写もない。

「戦う覚悟か 闘わない覚悟か」ではない。命を奪い奪われる戦争を進める政府とはもっともっと熾烈に戦い、諸国の人々とは戦わずもっともっと国際連帯を求める闘いこそ命を守り、愛するものを守る行為なのだ。

**沖縄や日本の先輩達が切り開いてきた地平・歴史認識を改めて想起されることを願います。**

米軍政下の島ぐるみ闘争・喜瀬武原の闘い・昆布地区の土地接取阻止の闘い・教公二法・全軍労・コザの戦い、とりわけ沖縄祖国復帰協会は日米共同声明に対する闘いから日米安保廃棄・自衛隊配備反対・すべての基地撤去を掲げて闘った。沖縄人民が輝き、世界の人民から敬愛された理由だ。この地平(歴史認識)を真剣に継承すべきであり、運動内部から、またそれに寄り添って来た人々が「新しい標語と哲学」で沖縄の歴史的到達点を滅却することは許さない。